

高知大学農林海洋科学部・農学部
Faculty of Agriculture and Marine Science Kochi University

vol.
42

October
2020

後援会だより



ご挨拶



農林海洋科学部・農学部
後援会長

もりした よしとも
森下 祥朋

会員の皆様におかれましては、日頃より後援会の活動にご理解、ご協力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。2020年度後援会会長を務めさせていただきます森下祥朋と申します。保護者代表として微力ながら後援会の役員、事務局の皆様方とともに精一杯努めてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

昨年度からの新型コロナウイルス感染症にて、感染拡大防止のため卒業式や入学式等の行事が中止となりました。今年度の後援会総会も開催することができず、書面での決議となり、皆様にはご負担とご迷惑をお掛けしております。毎年11月に開催していた物部キャンパス1日公開ならびに農林海洋科学部・農学部保護者会(就職説明会)も中止となりました。例年、参加された保護者・ご家族の皆様からご好評をいただいていただけに残念です。新型コロナウイルスにおいては、現段階でワクチンや特效薬がなく、社会全体の行動や移動が抑制され、経済の停滞が起り、先行きが読めないことが人々を不安にさせています。新しい生活様式を強いられ、学生の皆様も生活や学業、就職等に大きな不安を抱えていることと思います。

後援会では、ご子息・ご息女が充実した大学生活ができるよう、教育研究、就職活動、文化生活等への支援ならびに可能な限り会員相互の親睦を図っていきたくと考えております。今年度は後援会が例年のような助成事業に取り組むことができるのか一抹の不安はありますが、支援できることから進めてまいります。後援会は会員の皆様のご支援がなければ成り立ちません。今後とも何卒ご理解、ご協力を賜りますようよろしくお願い致します。

結びに、会員の皆様とご家族のご健勝、ご多幸を心よりご祈念申し上げます。



農林海洋科学部長

えだ しげ けい すけ
枝重 圭祐

本年度から、農林海洋科学部長となりました枝重圭祐と申します。農林海洋科学部・農学部後援会の皆様には、日頃より、学部・専攻の教育運営に多大なご協力とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

平成28年度に改組致しました農林海洋科学部が、この春にはじめての卒業生を送り出しました。また、大学院修士課程の改組により発足しました農林海洋科学専攻に、今春初めて新入生を迎えました。しかしながら、昨年度末から始まった新型コロナウイルスによる感染症の全国的な広がりにより、卒業式・修了式と入学式のいずれも中止せざるを得ませんでした。また、一学期の講義はほぼすべてリモートで実施せざるを得ませんでした。学生らしい生活ができない状態が続いており、特に新入生に対して申し訳なく思っております。また、後援者の皆様にはご迷惑・ご心配をおかけして誠に心苦しく思っております。小学校、中学校あるいは高等学校と異なり、大学は全国から学生が集まっていますので、このような厳しい対策を取らざるを得なかったことをご容赦ください。現在、本学が定めた「新型コロナウイルス感染拡大に伴う教育研究活動の実施方針」に従い全国や近隣の感染状況に応じて教育活動を行っています。5月26日より対面での実験・実習が一部実施可能となったため、消毒、換気等3密にならないよう感染防止対策を徹底したうえで、対面による実験・実習を開始しました。今後の新型コロナウイルス感染の動向は予断を許さず、状況をみながらではありますが、2学期から本格的に対面授業を開始し、講義の約80%については対面で行うこととして準備を進めております。しかしながら、ご好評いただいていた保護者会については、同日開催予定であった物部キャンパス一日公開共々中止とさせていただきます。少しでも早く、新型コロナウイルス感染が収まり、ご子息・ご息女が平常の学生生活を送れることになるよう心より願っております。

今後とも何卒ご理解、ご協力を賜りますようよろしくお願い致します。

後援会活動の紹介

例年このような活動を行なっています。
(本年度はコロナ禍で中止になったものもあります)

学生への支援

学生の就職活動や課外活動への経済的支援、卒業記念品の贈呈や卒業式後の祝賀会開催など様々な場面で支援をしています。



課外活動支援

- ・スピンバイク
- ・ラケット
- ・ボール
- ・シャツ



卒業記念品

- ・記念写真
- ・ホルダー
- ・記念品



就職活動支援

- ・就職雑誌の購入
- ・就職ガイダンスブック (ambition)
- ・講師謝金

後援会事業

後援会運営に関わる「総会」「役員会」、保護者の方に情報を発信する「保護者会」の開催や「後援会だより」の発行などがあります。



総会



役員会



保護者会



後援会だより発行

就活
レポート1. 県庁職員1本に絞って就活
地元を支える公務員に

| 西日本豪雨が心に突き刺さって

福見比呂さんは広島県出身。広島県庁の職員を目指して公務員試験を受験し、4倍に迫る倍率を突破して見事採用されました。志すようになったのは2年生の夏。6月末から7月上旬にかけて発生した西日本豪雨が大きなきっかけでした。「あの豪雨では広島県も甚大な被害を受けました。2014年にも大規模な土砂崩れがありましたし、毎年のように災害が発生しています。こうした状況を見て、広島県に貢献したいという思いが募り、県の職員を目指すことにしました」

福見さんの就職活動は公務員一本。民間の企業には目もくれず、広島県の職員を目指します。「落ちたときのことは全然頭になかったですね。勉強の邪魔になると思って、企業の採用試験は受けませんでした」と強い意志で臨みました。

| 同じ公務員志望の友人たちが支え

公務員採用試験は難易度が高く、学業とは別に受験勉強が欠かせません。福見さんは3年生の5月から、朝倉キャンパスで行われる公務員講座を受講するようになりました。けれども、物部キャンパスからは車で1時間ほどかかるため、授業や実験で忙しいときにはなかなか通えなかったそうです。「物部で夕方まで授業を受けたら、急いで朝倉に行っても、講義は半分ほど終わっています。参加できない人や復習したい人向けにビデオ講座があるので、積極的に利用することにしました。どうしても遅れ気味だったので、ほかの人に追いつくために、すごく頑張りました」

勉強の支えになったのが、同じ学部で公務員採用試験を目指す友人たち。「模試の結果を競うなど、ライバルみたいな感じでしたね。自分だけが講座を受けに行けなかった場合など、その分、ビデオ講座でしっかり勉強しなければ、という気になりました。

この友人たちがいなくて、1人だけで勉強していたら、合格できなかったかもしれません」と福見さんは友人たちに感謝しています。



勉強の甲斐あって、6月28日に実施された一次試験(筆記)を突破。7月30日の二次試験(面接)に臨みました。ところが、普段はまったく緊張しないタイプの福見さんが、この面接では「めっちゃ緊張した」とのこと。面接前から、のどがカラカラ。持参したお茶は、待機室にいる時点でなくなったそうです。しかも、本番では声が全然出ない。「本気で受かりたかったので、失敗できないという気持ちが強くて緊張したみたいです」と福見さん。ああ、落ちたかな…と思ったそうですが、8月17日、無事に合格の知らせがきました。

| 両親が喜んでくれてうれしい!

福見さんが採用されたのは、広島県庁の総合土木という技術職。生産環境管理学領域で4年間、みっちり学んだ農業土木に関する知識を活かせる部署に配属される予定です。「部下にも上司も同僚にも信頼されて、仕事をしっかり任せてもらえる公務員になりたい」と早くも将来を見据えています。



ご両親は就職に向けて「自分のやりたいようにやれ」という姿勢で、公務員志望にも全面的に賛成だったとのこと。「合格したことを電話で報告したとき、自分よりも喜んでくれました。喜ばせることができたのが、すごくうれしかったですね。頑張ってきて良かったなと思いました」と福見さんは笑顔で語ります。



誰からも信頼される
公務員になります!

就職先 広島県庁

農林資源
環境科学科 4年 福見 比呂



就活
レポート3. ピンチをチャンスに
視点を変えて希望の職種に合格

| 片道60kmの漁港まで通って研究

もともと水族館が好きだったという服部汐音さん。海洋資源科学科が魚の病気を研究していることを知り、興味を引かれるようになりました。東京出身ですが、大学ではフィールドワークがしたいという希望もあり、自然豊かな高知にやってきました。

4年生になって、望んでいた水族病理学研究室に所属しました。研究の対象は、須崎市で養殖されているカンパチの病気。「週3回ほど、キャンパスから片道60kmの須崎まで行って、病気の魚を譲っていただきます。研究室に持ち帰ったら、ハサミで解剖して腎臓や脳の組織を培地に塗り、培養して菌を大量に増やします。いま研究しているのは連鎖球菌症で、遺伝子を解析するためにPCR検査などを行っています」と忙しい研究の日々を語ります。



| 自分を見つめ直して軌道修正

服部さんは大学院に進学するか、就職するかという葛藤があったといいます。「研究を続けたら、魚に関する研究職に就くことになるでしょう。卒業したら東京に戻りたいので、研究とは関係のない業種に就職しようと考えました」

アルバイトでは接客が好きだった服部さん。3年生の冬、サービス業がいいのではとインターンシップに参加しましたが、立ち仕事が辛く、休日が土日ではないことなどが引っかかりました。「実際、正直なところ、何をやりたいのかをあまり深く考えていなくて…。そういった気持ちなので、やはり志望動機が弱くなって、一次面接でことごとく落ちてしまいました」と振り返ります。自分が本当にしたいのは何か。改めて考えた服部さんは、技術職

に就きたいと思うようになりました。それからはIT業界に軌道修正。独学で「Webクリエイター能力認定試験」の資格を取得し、システムエンジニアを志す新たな就職活動に取り組みました。「IT業界のことをよく調べてみると、本社が東京の企業が多く、転勤がないといったように、自分の希望に合うものでした。途中で気づいて、本当に良かったと思います。最初に思い描いていたような就活にはなりませんでしたが、自己分析ができて、満足できるIT企業に就職することができました」と服部さんは笑顔で話します。



今年は従来とは違う、新型コロナ下での就職活動。面接のほとんどがリモートで行われるなど、学生たちは苦労したようです。それでも、服部さんはデメリットばかりではないと語ります。「去年までは大都市の企業を受ける場合、交通費や宿泊代がすごくかかったと聞いています。今年はリモートでの面接が多かったので、出費が比較にならないほど少なく済んだ人が多かったですよ」

| 両親の言葉で「頑張ろう」と思えた

服部さんは就職活動をするうえで、高知大学の就職担当事務のサポートがあったかと語ります。「面接の練習に何度もつき合ってくださいました。webを使った練習もさせていただき、繰り返すことによってうまくいくようになりました。本当に助かりました」

両親に向けた感謝の言葉も紹介します。「面接に落ち続けている私に、しんどいのならやらなくてもいい、卒業さえしてくれれば何も言わない、と両親が言ってくれたんです。そう言ってもらえたからこそ、頑張ろうという心の余裕ができたと思います」服部さんは卒業後、東京の実家に帰り、新しい世界に羽ばたきます。



最終的に大満足できる
就職をすることができました！

就職先

CTソリューションズ
株式会社海洋資源科
学科 4年はっとり し おん
服部 汐音

就活
レポート4. 研究を通じて身につけた
ロジカルな思考法が役立つはず

| もっと研究を続けたいと大学院へ

父親が転勤族で、小学生時代を高知で過ごしていたという阪地満帆さん。高校生のとき、食品関係に興味があって調べていたら、高知大学で学べることを知って志望したそうです。4年生のときに所属したのは、食品の機能を探る生物資源利用化学研究室。「この分野をもっと研究したいと思って大学院に進学しました。いまは高知県の特産品である碁石茶を対象に、味に関与する物質を探しています。例えば、苦みのもとである物質がわかれば、作っている工程でその物質を減らすことができ、味の改善につなげられるかもしれません」

研究に励む一方、大学院1年の6月頃から、就職活動を意識するようになったそうです。「学部生時代に就活をしなかったのは、圧倒的なバインド」と分析する阪地さん。以前から仲が良かった同期の院生と情報交換をしつつ、具体的に行動するようになりました。

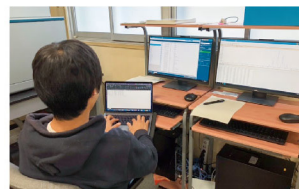
| 研究開発職インターンシップに参加

まずは、研究してきた食品関係の研究開発職に進もうと、就職合同説明会への参加、インターネットによる情報収集、適性検査のSPIやWebテストである玉手箱の対策などに取り組みます。しかし、就職活動の準備を進めるうちに、「本当に自分は食品関係に進みたいのか？」という疑問が生じてきたとのこと。「いったん立ち止まって、冷静に考えてみると、決定的な理由はないんです。ぐるぐる考えが回り出して、食品だけに絞るのも違うなと思って、ほかの分野も調べるようになりました」

そうして迷っているとき、ある大手企業に就職している学部のOBから、「うちの会社に興味はないか？」といった連絡が入ります。その会社のことを調べてみると、「食品関係の研究開発職と共通する部分があると感じたんです。人に喜んで使って

もらえるものを作るのは、とてもやりがいのある仕事ではないかと思いました」

その会社とはユニ・チャーム。インターンシップに参加し、社員とも交流するうち、「この会社で働きたい」という気持ちが強まり、ほぼ同社1本で就活を進めるようになりました。



| 就活は「個人戦」ではなく「団体戦」

思いが叶って、阪地さんは無事、ユニ・チャームへの就職が決定しました。職種は商品開発職。学んできた分野とは違いますが、高知大学の6年間で得たものは十分活かせると考えています。

「研究で培ってきたロジカルに物事を考える能力や、難しいことをわかりやすく伝える技術は、この職種でも重要な要素ではないかと思います。会社の商品はマスクや赤ちゃん用のおむつなどさまざまです。できれば、ほくは高齢者用の紙おむつの開発に携わりたい。年をとっても楽しく生きるために、進んでつけて歩きたいような紙おむつを作りたいですね」

大満足の結果を得られた、阪地さんの就職活動。その取り組みを通じて、とても大事だと思ったことがあるといいます。「就活は個人戦ではなく団体戦だといわれますが、まさにその通りだと思いました。自分で調べるだけでは、入手できる情報量には限りがあります。仲の良い友人と情報を共有することで、安心感が生まれ、前向きに頑張る気持ちも持つことができました」と学内で築いた人のつながりに感謝しています。



高齢者の暮らしを豊かにする
紙おむつを開発したい！

就職先

ユニ・チャーム
株式会社大学院
農学専攻 2年さかじみちお
阪地 満帆

より深い 学びを求めて 大学院へ進学

大学院で研究と教職の 両立を目指します

今年、大学院に進学しました。進学を決めた最も大きな理由は、純粋に研究をしたいと思ったからです。高知大学では、フィールドとキャンパスが近いので、調査やサンプリングに行きやすく、面白いデータがたくさん採れます。この恵まれた環境で、もっと研究を深めたいと考えました。また、私は教職を志望していることもあり、より専門性の高い講義やプログラムを受講したいと思ったことも理由の1つです。

進学を決めたのは4年生の6月、教育実習が終わってからでした。以前、教職の先生に「一度社会に出てから教員になるのもいいよ」というアドバイスを頂いていたので、私は数年企業で働いてから教員になろうと考えていました。しかし、教育実習を経験して、やはり大学を出たらずに教員になりたいという思いが強くなりました。そこで、私は大学院に進学して、大好きな研究を続けながらも、教員としての専門性の向上を目指すことにしました。あり

3年計画で研究を進めたいと、 大学院に進学を決めました

水環境工学研究室に所属し、下水処理について研究しています。農業経営に興味があって高知大学に入学しましたが、授業を受けるうちに、水環境にかかわる学びのほうがより魅力を感じるようになりました。しかし、学部生の間は4年生のときの1年間しか研究できません。大学院に進めば、修士課程の2年間と合わせて3年計画で研究を進められ、学べる幅も広がるので、早い段階から進学することを決めました。進学した理由はもう1つ、就職のこともあります。技術職や開発職に就きたいという希望があり、学部だけでは専門性に欠けて就職しづらいので、大学院でも研究を続けることにしました。

一般的に下水処理は、生物処理によって行う方法をメインに実用化されています。私はそうではなく、正浸透膜を用いて、下水を物理的に直接処理するための研究をしています。膜を使って処理する方法は最近、導入されるようになってきましたが、正浸透膜に

農林海洋科学専攻 1年
はや かわ ひかる
早川 輝



がたいことに、両親は教員を目指す私を応援してくれており、私の大学院進学に関しても前向きに考えてくれました。

大学院では、水生昆虫の分布や多様性に関する研究をしています。フィールドは大学のすぐ近くを流れている物部川。この川にはダムが3ヶ所あり、その上流と下流では水生昆虫の分布も異なるのではないかと考えられています。しかし、まだ確かな調査データはありません。最終的には私の研究で、その分布の違いを明らかにしたいと考えています。今年は新型コロナの影響に加えて、大雨による増水も多く、なかなか調査に行けないのですが、状況を見ながら少しずつ研究を進めていきます。

農学専攻 2年
よし さだ
吉貞 ころ



よる下水処理はまだ実用化されていません。この方法を利用すると、処理場で消費するエネルギーを抑えることができるなど、多くのメリットがあると考えています。今年には新型コロナの影響で、全体のスケジュールが遅れ気味。学会での発表もなくなり、書面だけの発表になったので、ちょっと残念です。

京都が出身で、地元の大学院に進むことも考えましたが、所属している研究室は独自の研究を実用化につなげた実績もあります。同じところで成長したいと思って、そのまま進学しました。来年、大学院を卒業しますが、産業排水処理をメイン業務とする会社に就職の内定をいただきました。高知大学でのこれまでの研究を十分活かせると思います。



高知大学学章(シンボルマーク)

未来へ向かって飛躍し、希望に満ちた新生「高知大学」のイニシャル「K」をモチーフに、青色で太平洋の波濤と黒潮を、空色で若者の可能性と大空とをそれぞれイメージし配色。躍動感あふれた新生「高知大学」を表しています。

表紙の写真は8月下旬に
物部キャンパスを撮影しました